



8/10『気になる子のサポート研修講座』を紹介します！

「気になる子も輝く 教師のマインドチェンジ」

杉並区立済美養護学校 主任教諭 川上 康則 先生



泣きわめく、固まる、落ち着きがない…、このような状況を目の当たりにしたとき、皆さんはどうしていますか？子ども達の笑顔が増える教室を目指して、私たち教師はどうあればよいのでしょうか。今回の講座では子ども達との関わりのマインドをスタンバイするポイントを8つ学びました。みなさんも一度チェックしてみてください。

その1 「外れる・はみ出す・かき乱す存在」としてではなく、「関わりを見い出す楽しさをもたらし存在」として見よう

- せっかちに結果を求めていますか
- うまくいったときの手がかりに目を向けていますか
- 笑顔を機嫌の良さをキープできていますか

その2 校内・職員室内で「当たり前になっている習慣」を見直していこう

- 『ちゃんとの呪い』にかかっていますか
- 自分の認知バイアスに気づいていますか
- 自分の指導は正しいと思い込んでいませんか

その3 子どもを変えるやり方を求めるのではなく、大人自身の考え方や在り方を見直そう

- 『尖った不穏な風』を吹かせていませんか
- 「何回言われたら分かるの」「勝手にすれば」
- 「早くしないと〇〇させないよ」
- 「1年生でもやらないよ」「もういいです」
- 「叱る」「ほめる」、「厳しい」「甘い」といった二項対立で物事を捉えていませんか

その4 当事者視点を大切にしよう

- 子どもの障害や特性について理解していますか
- 教室内の『実態の幅』を意識していますか
- その子に合った支援の方法を模索していますか

その5 子ども達の『安全基地』でいよう

- 子どもとラポールが築けていますか
 - 子どもの『立つ瀬』を考えていますか
- Au pas, camarade. (オパッキヤマラド)**
「大丈夫だよ、1つ1つ乗り越えていこう」

その6 叱る前に関係性を考えよう

- 話を聞かせることより、子どもの声に耳を傾けることを大切にしていますか

<関わりのポイント>

- ①待つ ②その子なりの行動の意味を考える
- ③目をつぶる ④力に頼らない ⑤言葉を選ぶ

その7 子どもの『伸びしろ』を発見することに喜びを感じよう

- プラスの言葉かけを心がけていますか
- <ほめ方のコツ>→『**太く、短く、タイミングよく**』
- 感嘆詞を使う
あぁ!(納得) いい!(賞賛) うん(同意)
えっ!(驚き) おお!(感動)
 - 行動をそのまま2回言う 「書いてる書いてる」
 - 続けるべきであることを伝える 「それぞれ!」

その8 教室や職員室を

『心地よい風』で包み込もう

- 「分からない」「助けて」がいつでも言える教室・職員室になっていますか



受講者の声

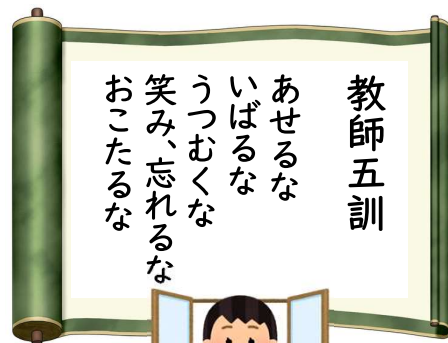
多忙な日々視野が狭くなっている自分に気づかされました。自分の考え方や習慣を変えないと相手は変わらないと改めて感じました。

教員として子どもと対峙していく上で、すぐには消化できないほどたくさん、でもずっと大切にしていきたいと思うことを学ぶことができました。今日の資料を手元に置いて、定期的に見直し、軌道修正していきたいです。

自分の生徒への対応を振り返って反省しきりでした。もっと笑顔で子どものいいところを見つけていかないとお互いに辛いと思いました。

子どもに対してだけでなく、同僚、家族への自分の決めつけ、固定概念を突きつけられた気がしました。とらわれすぎないマインドを持ちたいと思います。

クラスの子どもの顔が思い浮かびました。2学期からは誉め言葉と笑顔を増やすこと、「ポジティブ報告待っているよ」「間違えてもいいんだよ」と子ども達に伝えることからやってみたいです。



教師五訓
あせるな
いばるな
うつつむくな
笑み、忘れるな
おこたるな



人の意欲の扉は
内側からしか開かない!

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302

川上先生のご著書は事務所に多数貸し出しております。ぜひお読みください。